編 修 趣 意 書

（教育基本法との対照表）

※受理番号	学校	教科	種目	学年
28-24	高等学校	商業科	ビジネス情報	

※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※ 教 科 書 名
190 東法	商業 353	ビジネス情報　新訂版

１．編修の基本方針

全編をとおしての共通テーマを設定し、一貫した流れの中で興味深く学習が続けられるように配慮しました。『ビジネス情報』の教科書としての独自性を保ちつつ、『情報処理』を学習した生徒がすんなりと『ビジネス情報』の学習へとつながっていけるよう、『情報処理』教科書とテーマやイメージに共通性をもたせて作成しています。

ソフトウェアを活用した例題や実習問題などでは、前に作成したデータを加工しての実習ができるようにするなど、連続性のある学習ができるようにし、情報を活用するということが実体験としてわかるようにしました。

例題や実習問題の課題などでは、自然や文化・伝統などを題材に取り上げ、課題に取り組むことで理解を深められるよう配慮しました。

２．対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	**該当箇所**
第 1 章　オフィス業務と情報通信ネットワーク	・スマートハウス／スマートグリッドについて記述（第４号）。 ・イラスト等を多用して、これからの社会で求められる社会人像といったものを想起できるように配慮（第２号）。	表見返し 2～3、5 ページ
第１節　業務の情報化		
１．オフィス業務		
２．エンドユーザコンピューティング		

第 2 節　情報通信ネットワークの導入と運用	・コンピュータシステムは人間が作るということを前提に、その知識の重要性や在り方について記述（第１号）。	14、24 ページ
１．ＬＡＮの利用		
２．ＬＡＮの構築		
３．安定したシステムの構築		
第３節　データの保護	・データの保護について、個人の責任が重要であることを記述（第３号）。	26～28 ページ
１．データの保護		
第 2 章　表計算ソフトウェアの活用	演習を通して、計算方法を習得し活用する能力を身に付けることができる（第１号）。	30～47 ページ
第１節　ビジネス計算		
１．ビジネス計算と表計算ソフト		
２．単利・福利の計算		
３．年金・積立金・賦金の計算		
４．債券の計算		
５．株式の計算		

第 2 節　データの集計・分析	社会での身近な課題を想定し、実生活で解決する力を養うことができる（第２号）。	48～65 ページ
１．データの集計		
２．データ分析		
３．シミュレーション		
第 3 節　オペレーションズリサーチの基礎	社会での身近な課題を想定し、実生活で解決する力を養うことができる（第２号）。	74～81 ページ
１．在庫管理		
２．線形計画法		
３．待ち行列		
第 4 節　手続きの自動化	・EUD について記述（第２号）。	82 ページ
１．マクロの基礎		
第 3 章　データベースソフトウェアの活用	社会での身近な課題を想定し、実生活で解決する力を養うことができる（第２号）。	90～95 ページ
第 1 節　ビジネスとデータベース		
１．データベースの特徴		
２．リレーショナルデータベース		

第 2 節　基本的なデータベースの作成	・伝統と文化をテーマにした課題を設定し、課題に取り組むことで、興味を喚起し、自然に学ぶことができる（第５号）。	96～117 ページ
１．データベースソフトの構成要素		
２．データベースの作成		
３．データベースの操作		
４．報告書の作成		
第 3 節　発展的なデータベースの作成	・ヒューマンインタフェースについて記述（第３号）。 ・伝統と文化をテーマにした課題を設定し、課題に取り組むことで、興味を喚起し、自然に学ぶことができる（第５号）。	133 ページ 118～153 ページ
１．データベースの設計		
２．リレーショナルデータベースの作成		
３．報告書の作成		
４．手続きの自動化		
第 4 節　ＳＱＬ	・伝統と文化をテーマにした課題を設定し、課題に取り組むことで、興味を喚起し、自然に学ぶことができる（第５号）。	154～164 ページ
１．ＳＱＬ		

第 4 章　ソフトウェアを活用したシステム開発	社会での身近な課題を想定し、実生活で解決する力を養うことができる(第2号)。	166～181 ページ
第 1 節　アルゴリズム		
１．アルゴリズム		
第 2 節　表計算ソフトウェアの活用	演習を通して、計算方法を習得し活用する能力を身に付けることができる(第1号)。	182～215 ページ
１．表計算ソフトのプログラミング		
２．表計算ソフトのユーザフォーム		
第 3 節　システム開発	社会での身近な課題を想定し、実生活で解決する力を養うことができる(第2号)。	216～263 ページ
１．表計算ソフトを利用したシステム開発		
２．データベースソフトを利用したシステム開発		

３．上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

・システム開発では、表計算ソフトウェアとデータベースソフトウェアの活用において同じ題材を開発テーマとし、いずれか１項目を選択して扱った場合にも、学習内容に差違のないようにしました。また、両方の学習をおこなった場合にも、それぞれの特徴や技法について、違いや共通点などが明確にわかるように構成しました。

編修趣意書

（学習指導要領との対照表，配当授業時数表）

※受理番号	学校	教科	種目	学年
28-24	高等学校	商業科	ビジネス情報	

※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名
190 東法	商業 353	ビジネス情報　新訂版

１．編修上特に意を用いた点や特色

（１）第１章の情報通信ネットワークの導入と運用では、システム障害に対処するための知識にとどまらず、効率的な情報処理のためのシステムの構成やデータセンターの利用などを学びます。ビジネスの諸活動において、コンピュータを適切に運用するための知識と必要な態度について、ビジネス現場の動向などと関連させて著述しています。

（２）第２章のソフトウェアの操作については、授業の中で無理なく知識と技術が習得できるように、課題設定を工夫し、操作方法についても教科書のみで学習ができるよう、丁寧な解説を心がけました。

（３）第３章では、『ビジネス情報』で初めて学習するデータベースについて、最初に「基本的なデータベース」を学習し、そのあとに「基本的なデータベース」をもとに「発展的なデータベース」を学習するという、二段構えの構成とし、確実な理解につながるようにしました。

（４）第４章のシステム開発では、その前段階における考え方や判断力などが重要であることを考慮し、アルゴリズムの学習に重点をおいた構成としています。第4章は、コンピュータを運用する能力を「生きる力」として身に付けるための総まとめとして位置づけています。

２．対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
第1章　オフィス業務と情報通信ネットワーク	(1)オフィス業務と情報通信ネットワーク ア．業務の情報化	2～7ページ	2
第1節　業務の情報化			
１．オフィス業務			
２．エンドユーザコンピューティング			
第2節　情報通信ネットワークの導入と運用	(1)オフィス業務と情報通信ネットワーク イ．情報通信ネットワークの導入と運用	8～25ページ	5
１．ＬＡＮの利用			
２．ＬＡＮの構築			
３．安定したシステムの構築			
第3節　データの保護	(1)オフィス業務と情報通信ネットワーク ウ．データの保護	26～28ページ	1
１．データの保護			

第2章　表計算ソフトウェアの活用	(2)表計算ソフトウェアの活用 ア.ビジネス計算とデータの集計・分析	30～47ページ	8
第1節　ビジネス計算			
１．ビジネス計算と表計算ソフト			
２．単利・福利の計算			
３．年金・積立金・賦金の計算			
４．債券の計算			
５．株式の計算			
第2節　データの集計・分析	(2)表計算ソフトウェアの活用 ア.ビジネス計算とデータの集計・分析	48～65ページ	8
１．データの集計			
２．データ分析			
３．シミュレーション			
第3節　オペレーションズリサーチの基礎	(2)表計算ソフトウェアの活用 イ．オペレーションズリサーチの基礎	66～81ページ	9
１．在庫管理			
２．線形計画法			
３．待ち行列			
第4節　手続きの自動化	(2)表計算ソフトウェアの活用 ウ．手続きの自動化	82～88ページ	2
１．マクロの基礎			
第3章　データベースソフトウェアの活用	(3)データベースソフトウェアの活用 ア．ビジネスとデータベース	90～95ページ	1
第1節　ビジネスとデータベース			
１．データベースの特徴			
２．リレーショナルデータベース			
第2節　基本的なデータベースの作成	(3)データベースソフトウェアの活用 イ．データベースの設計と作成 ウ．データの入力とデータベースの操作	96～117ページ	6
１．データベースソフトの構成要素			
２．データベースの作成			
３．データベースの操作			
４．報告書の作成			

第3節　発展的なデータベースの作成	(3)データベースソフトウェアの活用 イ．データベースの設計と作成 ウ．データの入力とデータベースの操作 エ．報告書の作成 オ．手続きの自動化	118～153ページ	8
１．データベースの設計			
２．リレーショナルデータベースの作成			
３．報告書の作成			
４．手続きの自動化			
第4節　ＳＱＬ	(3)データベースソフトウェアの活用 イ．データベースの設計と作成 ウ．データの入力とデータベースの操作	154～164ページ	5
１．ＳＱＬ			
第4章　ソフトウェアを活用したシステム開発	(4)ソフトウェアを活用したシステム開発 ア. アルゴリズム	166～181ページ	10
第1節　アルゴリズム			
１．アルゴリズム			
第2節　表計算ソフトウェアの活用	(4)ソフトウェアを活用したシステム開発 イ. 表計算ソフトウェアの活用	182～215ページ	20
１．表計算ソフトのプログラミング			
２．表計算ソフトのユーザフォーム			
第3節　システム開発	(4)ソフトウェアを活用したシステム開発 イ. 表計算ソフトウェアの活用 ウ. データベースソフトウェアの活用	216～263ページ	20
１．表計算ソフトを利用したシステム開発			
２．データベースソフトを利用したシステム開発			
	計		105